別紙

令和4年度　学習分析事業　改善計画　三原市立本郷小学校

1．本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均　（全国を50とする）

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		59.1	58.3	57.5	57.5	58.1
	本年度結果 偏差値平均	49.8	54	54.4	51	51.3	52.1
算数	前年度結果 偏差値平均		59.3	58.7	59.2	55.2	58.1
	本年度結果 偏差値平均	47.6	51.6	53.2	50.8	51.8	51
理科	前年度結果 偏差値平均				56.5	52.9	54.7
	本年度結果 偏差値平均			52.8	47.9	50.4	50.4
全体	前年度結果 偏差値平均		59.2	58.5	57.8	55.2	57.7
	本年度結果 偏差値平均	48.7	52.8	53.5	49.9	51	51.2

②全国学力・学習状況調査　正答率平均　（第6学年対象）

教科	国語	算数	理科
前年度結果 （対県比）	65 （98）	68 （97）	
本年度結果 （対県比）	62 （93）	62 （97）	63 （95）

2．調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】（NRTをうけて） ●国語科では，考えや感想を持って伝え合うこと（33.9%），主題や構成を読み取ること（46.2%），詳細を読み取って解釈すること（42.8%）に課題があった。 ●算数科では，表と棒グラフ（57.6%），時間と時刻（60.4%），帯グラフ（49.3%）合同な図形（56%），平均（64.9%）に課題があった。 ●理科では，物の種類や水の温度で溶ける量（52.5%），月や星の動きと特徴（68.7%），空気や水の体積とおし返す力（64.2%），光の進みや明るさ（68.1%），物の体積と重さ（69.8%）に課題があった。	【年度当初の学力について】（全国学力・学習状況調査をうけて） ●国語科では，言葉には相手のとのつながりをつくる働きがあることを捉えること（57.7%，全国平均より−11.1%），漢字を文の中で正しく使うこと（3問平均55%，全国平均より−8.7%）に課題があった。 ●算数科では，分類整理されたデータを基に，目的に応じてデータの特徴を捉え考察すること（42.3%，全国平均より−21.6%），正三角形の意味や性質を基に，回転の大きさとしての角の大きさに着目し，正三角形の構成の仕方について考察し，記述すること（29.6%，全国平均より−19.2%）に課題があった。 ●理科では，自分で発想した実験の方法と，追加された情報を基に，実験方法を検討して，改善し，自分の考えをもつことができること（53.5%，全国平均より−15.4%），結果を見通して，問題を解決するまでの道筋を構想し，自分の考えをもつことができること（54.9%，全国平均より−9.6%）に課題があった。

3．課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標　（何を，どの程度達成するか）	達成のための具体的取組　（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 〇全教諭が，本校の「授業モデル」を基に日々の授業に取組み，「問いの設定」，「問いの探究」を意識して実施できるようにする。「なぜ」を追究する探求的な授業を行い，「わかって楽しい」と答える児童を90%以上にする。 〇研究授業や協議会等を通して，児童が学習への意欲を高めながら取り組めるような導入や問い，集団思考の場を工夫していく。振り返りの内容項目を見直し，振り返りの質を上げていく。	①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案 ②分析結果や校内での研究授業を基に授業改善を行う。 ③学期毎に児童・教員へのアンケートを行い，実態把握と振り返りを行う。 ④全教職員による全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握を行い，各学年で課題のある問題へ計画的な取組を行う。 ⑤学力調査問題における正答率の低い問題の類似問題をドリルタイム等で実施。国語では読み取り問題，算数ではD領域の問題を取り組むことを全学年で統一し，ドリルタイムで行った問題のテストを行い成果を見る。来年度に向けて他学年の家庭学習の内容や量を把握し，内容の統一を図ったり，変更したりし系統的に取り組めるようにする。	①6～7月 ②年間通して ③学期末（7月・12月・2月） ④7～8月 ⑤年間通して→9，10月ドリルタイムで取組み，10月末にテスト。11月，12月にドリルタイムを行い12月末にテスト。	・各学期の単元末テスト平均値 （80点以上の児童の割合80%以上） 前期 算数科→74%，社会科→81% 後期 算数科→70%，社会科→81% ・わかって楽しい」と答える児童を90%以上にする。 前期 算数科→81.7%，社会科→86.8% 後期 算数科→86%，社会科→85%
【学級・学習集団づくり】 〇全学級において，基本的な学習ルールや環境整備などを揃え，徹底できるようにする。 〇一人一人の役割を明確にし，仲間や集団の中に居場所を意識できる活動の設定する。 〇校内で，支援児童の情報を交流・共有し，居場所づくりと自己肯定感を上げていく。	①Q－Uの分析による実態把握と改善計画の立案や交流する。 ②生徒指導の三機能を生かした授業づくりや，校内での研究授業を通して交流・振り返りを行う。 ③校内での生徒指導委員会や特別支援委員会など，定期的な話し合いの場で常時児童の実態を把握・交流する。 ④学期ごとに児童へのアンケートを行い，実態把握と振り返りを行う。	①6～7月 ②年間通して ③常時（それぞれ月1回以上有） ④学期末（7月・12月・2月）	・Q－U2回目の一次支援の数値向上 （全学級で1回目以上） ・Q－U2回目の三次支援の数値0%を目指す